

一般社団法人 日本物理学会

第74期物理学史資料委員会（2018年4月～2019年3月）活動報告

委員長：岡本拓司

副委員長：小長谷大介

委員：村尾美緒（担当理事） 有賀暢迪 稲葉肇 小長谷大介 佐々木孝彦 所澤潤
高岩義信 永平幸雄 並木雅俊 難波忠清 林春雄

1. 物理学史資料委員会の開催

下記のとおり、3回の委員会議を行った。

第105回：2018年6月2日（土）14:00～17:10

第106回：2018年9月29日（土）14:00～16:30

第107回：2019年2月2日（土）14:00～17:20

2. グループの構成

前年度のグループ構成を引き続き維持した。各グループの構成メンバー（◎印の委員はチーフ）は以下の通りである。

- ① 資料委員会保有資料の保存と管理
◎並木、高岩、所澤、事務局
- ② 『会報』掲載資料及び資料保存機関の情報の随時アップデートとオンライン化の検討
◎岡本(拓)、岡本(祐)、有賀、佐々木
- ③ 資料委員会のホームページの充実
◎高岩、林
- ④ 学会開催時のシンポ・展示等の企画検討
◎小長谷、有賀、稲葉
- ⑤ 「年表（第二版）」の定期的アップデート手順の検討
◎難波、岡本（拓）、並木、所澤
- ⑥ 「物理遺産の検討」
◎永平、岡本（裕）、林、稲葉

3. 物理学史資料に関する情報

資料委員会会議時に各地の物理学史資料情報の収集を行った。今期の報告において言及された資料館、博物館には以下のものが含まれる。

東京工業大学、東京大学駒場博物館、筑波大学・朝永記念室、京都大学基礎物理学研究所・湯川記念館史料室、理化学研究所、上智大学史資料室

4. 各グループの活動

①資料委員会保有資料の保存と管理

A. 書庫整理

段ボールに入っていた書籍・資料を、カビおよび埃を除去し、書棚（キャビネット）に旧整理番号順に並べる作業をした。

B. 資料のカビ取り作業の見学を行った。

日時：3月11（月）10：30～11：30

場所：東大工2号館図書室グループ学習室

内容：a. 実際のクリーニング作業、
b. 搬入先の工3号館図書室の見学、
c. 業者選定までの経緯等

参加者：山口、佐藤、岡村

メモ：a. 東大工学部図書資料清掃について業者委託したとのことで、その内容を伺った。

b. 東大工学部5号館図書室において、掃除機を使って資料のドライクリーニングと消毒用エタノールで拭く作業をしているところを見学した。

c. 処置をした資料の搬入先の工学3号館図書室の見学をした。

d. 業者選定の経緯と作業内容について市村さん（東大工学・情報理工学図書館）より伺った内容は次のとおりである。

⑦経費を低く見積もるため、今回はドライクリーニングに特化した。

⑧カビが発生した本については、ジブロックやモルデナイベに収納して他の本に影響がないようにする。

⑨資料の電子化ができるものは電子化をするが、原本は保存する。

C. 次年度（2019年度）は、会員が見てもわかりやすいように整理する。

②『会報』掲載資料及び資料保存機関の情報の随時アップデートとオンライン化の検討

A. 『物理学史資料委員会会報』5号の作成の準備を行った。2019年6月17日に刊行し、ウェブ上で公開する予定である。従来の『会報』は関連する資料館・文書館を可能な限り網羅し、また以前に取り上げた機関について綿密に追跡調査を行っていたが、現在はインターネットの普及に伴い、資料に関する情報の多くは諸機関のウェブサイトなどから比較的容易に入手できる。この状況下で、『会報』の意義を高めるためには、提供する情報の内容や形式を、網羅性よりも、資料の管理者や利用者としての見解を反映させることを重視したものとしていくなどして、独自性を明確にすることが必要である。『会報』5号の制作にあたっては、部分的にはあるがこの方針を採用した。

B. 委員会議事録の公表に代えて、委員会の後に、各委員会中に報告された資料の情報を中心にまとめた、速報性のある『物理学史資料委員会ニュース』を作成してウェブ公開する計画を検討中である。今期は活動の中心を『会報』の制作と発表においたために『ニュース』の制作には着手できなかったが、早々に、『会報』と『ニュース』の2媒

体を用いた資料情報の発信の仕組みを整えていきたい。

③資料委員会のホームページの充実

A. 既存のホームページを見直して、当委員会のミッション、活動の紹介により適切なものとするための内容と枠組みの検討を行った。内容が古くなったり、必ずしも一般向けに提供する必要のないコンテンツは整理し、実際の委員会活動およびその成果を公表するのに適切なコンテンツを提供するように、他のワーキンググループと連携して進めていく。

B. 物理学会のホームページのなかに組み込まれて当委員会のホームページが置かれているので、実際に内容のアップデートを行うには学会のホームページ管理担当者と協力して進めなければならないことを確認した。

C. 2019年度よりは、学会ホームページにテストのページを用意しそこで試験的に作成して改良しながら、出来上がったところから順次公式のホームページにアップしていく方針をとることとした。

④学会開催時のシンポ・展示等の企画検討

A. 2018年秋季大会（物性・同志社大学）において、9月11日に領域13シンポジウム「物理学史家：廣重徹は何をしたかー『物理学史Ⅰ・Ⅱ』出版から50年を機会に」を実施した。なお、当シンポジウムの詳細は『大学の物理教育』第25巻第1号（2019年3月）に掲載された。

⑤「年表（第二版）」の定期的アップデート手順の検討

A. 既刊の年表（第二版）のウェブ公開の検討と準備を行った。

公開は、「物理学会関連」に限定し（「社会・文化」のページは除く）、かつ公刊されている体裁でPDFの形で掲載する。

ウェブ公開に当たっては、第二版における一部の誤字・脱字、変換ミスなど軽易な修正のみに留め、記事の追加などは今後検討する。

B. 「年表（第二版）」以降（2012年以降）のアップデートについて検討を行った。

年表グループメンバーが、委員会開催日に合わせて、午前中に作業を実施した。2012年～2016年分の「物理学会関連」欄のデータを、学会誌などを参照に作成し、その点検・校正作業を進めた。準備が整い次第、順次ウェブ上で公開する。

ウェブ上での体裁などは、既刊の年表（第二版）に合わせる。

⑥物理遺産の検討

第105回（2018年度第1回委員会（2018年6月））にて、「物理遺産」検討グループとして永平幸雄（チーフ）、岡本祐幸、林春雄に加えて、新たに稲葉肇が加わる事が決まった。

A. 以下のグループ会議を1回行った。

1) 第1回グループ会議 2018年12月

B. 以下の2回の委員会で報告を行った。

1) 第106回委員会（2018年9月アメリカ物理学会とヨーロッパ物理学会の Historic Sites と第1回自然科学系アーカイブズ研究会での論議の報告

2) 第107回委員会（2018年12月）：これまで報告した日本3学会と欧米4学会の比較検討

C. 今期は、日本機械学会、日本化学会、日本天文学会、アメリカ機械学会、アメリカ化学会、アメリカ物理学会、ヨーロッパ物理学会の7つの学会の比較検討を行い、名称と認定目的に以下のような大きな違いがあることを明確にし、一試案を提案し、資料委員会の論議に付した。

1) 日本の3学会は「遺産」の名称で、その認定目的は「貴重史料の保存と継承」となっていた。アメリカ機械学会とアメリカ化学会の場合、名称は Historic Landmarks、アメリカ物理学会とヨーロッパ物理学会の場合、名称は Historic Sites で、その認定目的は、「各学術の社会貢献を市民に広報する」と「各分野の科学技術者に各分野の歴史理解を促し、先人の業績の誇りをもつことを目指す」であった。

2) 上記7学会の比較検討の結果をもとに一つの試案として「物理歴史ランドマーク」の提案をした。

以上